

9月定例会の一般質問は、16日、17日の両日行われ、8名の議員が市政各般にわたり、一般質問を行いました。

市政を聞く 一般質問

一般質問の原稿は、各発言議員が作成しています。



風呂繁昭
議員

問①市長のマニフェスト、行財政改革、市民の参加協働型市政、広域親交、観光活性化、悠久いきいきシティ小浜について。

答 施策事務事業評価に将来外部評価を取り入れたい。組織機構改革会議を立ち上げ、コンパクトな組織を構築する。適正な時期に使用料等の見直しを行う。主要な政策の立案や重要な行政課題には市政ブレーン委員会を設置し意見を聞く。観光局を創設し市内の産業育成と地域経済の活性化に繋げる。地域農業サポートセンターを設置し平成21年度産水稻の

春作業から支援を開始する。障害者自立支援制度によりグループホーム定員数(昨年35名)59名であり安心して生活できるよう取り組む。高齢者等を支え地域の中で憩いの場づくり、休息ベンチ等の整備を進める。

意見市長の給与は県下9市最低に。窓口業務を民間委託にして観光局をつばき回廊に設置を。歴史文化自然の宝庫であるので、旅行会社や県の産業支援センター等にも入ってもらい、事業主体は民間で観光や市民の交流の場として松崎カラーを出して欲しい。



佐久間博
議員

問①市長の小浜市の観光への考え方。

答 地域資源を活かし、体験・滞在型観光の推進や各方面に広く効果が及ぶようにしたい。

問②観光局のキーポイントは。

答 アウトドア名人などの人材を生かしたマイスター制度の取り組みが必要と考えている。

問③つばき回廊商業棟施設の再生は。

答 「集い・憩い・交流」機能を含めた複合施設の再生が望ましい。

問④民間が取得する場合の費用は。

答 不動産取得税、登録免許税などが8,000万円、

固定資産税が年間2,500万円ほどかかる。

問⑤観光局構想やまちづくりの為に競売だけは避けるべきと思うが市長の決意は。

答 つばき回廊は本市にとって重要交流拠点でまちづくり全般にわたって非常に重要。

問⑥琵琶湖若狭湾快速鉄道の市長の取り組みは。

答 一体の地域振興や連携に向け仮称「高島・若狭・小浜定住自立圏を目指して」の交流シンポジウム11月以降の開催を決定。3自治体の官民運動の県、国に影響力は、国の制度改革等に大きい動機づけになる。



能登恵子
議員

問①新市長に問う。

A. 中間貯蔵施設誘致しない考えに変わりはないか。

答 誘致しない。

I. 食品に対する不安・不審が大きい。食のまちとして、給食を地域の米や農産物等での推進・発展は。自校方式をもっと進め、自校炊飯にするか。

答 現在、自校炊飯8校、委託炊飯7校、今後も自校炊飯の推進に向け取組む。

U. 生守雇用促進住宅問題に対して、早急なる

相談窓口の設置と市営住宅化の考えは。

答 市長会も国に要望。年内に相談窓口設置。

問②具体的な使途、事業を掲げてふるさと納税のPR強化をしないと流出も考えられる。また市民も小浜市に出来るが。

答 チャンネルOや広報で報告するが、一般財源の問題もあり事業指定は難しい。

問③介護保険事業見直しは支払い段階を12段階へ、公平な運営と情報公開を。

答 多段階化を検討。在宅サービスに重点を置く。介護政策評価システムは調査・研究。



藤田善平
議員

問①道州制について、小浜市を中心とする若狭地方は、歴史、風土、地理的な面からも、京都、大阪などの関西圏に属するものであると考えるが、嶺南自治体で関西圏への区割りとなるように連携して取り組むべきではないか。

問②現在舞鶴若狭自動車道に連携して補助事業による道路、水路等の整備が行われているが、地域振興策の取り組みを問う。

問③防災面から北川水系の江古川流域に関して整備計画が検討されており、現在対策工法として6案が提案されたが、「輪中堤」は問題

が多く論外であり、ポンプ排水や土地のかさ上げが最適と考えるが今後の取り組みを問う。

問④地域農業の振興のため、農地、水、環境保全向上対策の取り組みをさらに推進すべき。生産資材の価格高騰の状況で、今後の指導をどう考えているか。農作物の鳥獣被害対策について、個体数を管理するなどの抜本的な策ができるか。

問⑤つばき回廊対策に調査検討予算を計上し、民間活力による提案の検討や解体による再生案も含め充分に検討すべきである。

(質問のみ掲載)



下中雅之
謳

問①観光における経済効果の目標設定も必要かと思われるが、所見を伺う。

答 観光客が増加し、滞在型化することにより観光消費額が伸び、市内産業の活性化が図られるようなシステムをなるべく早く構築し、観光都市として発展していくためにも経済波及効果の数値目標の設定は重要であると考え、今後検討していきたい。

問②観光圈整備法は、点として個々の取り組みを行っていた観光地が周辺地域と連携して、面としての高い魅力あふれる観光地づくりを行

うものであるが、近隣への呼びかけ等は行うのか。

小浜市と近隣地域の発展にとって、広域連携による観光振興は大変重要であると考えており、観光圏整備法に基づく支援制度などの活用についても今後検討したい。

問③環境対策として温室効果ガス削減の取り組みに対する本市の課題を伺う。

答 エコ活動に加え、山林水環境の保全による森林の育成や、地産地消による運輸エネルギーの削減等も大切と考える。



宮崎 治宇藏
議員

問①北川水系河川整備計画について。

答 整備を行う区間としては、JA若狭国富支店付近より上流の約2.0kmである。輪中堤の問題点として、江古川右岸の築堤により防御する案では、堤防内の水を吐き出す排水ポンプが必要になる。宅地周辺に限定する案では、輪中堤外の区域は守れず、避難路の確保が課題となる。水門プラスポンプの排水案は、浸水被害の軽減に最も効果があるが、費用が膨大になる。

問②介護保険の見直しについて。

答 過去2回の介護報酬の改定において、2.3%、2.4%のマイナス改定により低賃金による人手不足、厳しい労働条件等の問題が起きている。平成12年度と19年度を比較すると、要介護認定者数で186%、介護保険給付費で218%と急激な右肩上がりとなっている。現在4,100円の介護保険料の値上げが予想される。

財政健全化法について。

問③財政指標が一定程度悪化すれば自主的改善
答 努力が義務付けられる「早期健全化」、さらに
悪化した場合は「再生」へ移行する。



井上 万治郎
議員

問①ふるさと納税制度について問う。この制度は、西川知事が提唱され、財政難に苦しむ地方の自治体の新たな財源確保策として鳴り物入りでスタートした。都市と地方の税収格差是正が狙いで、出身地や応援したい自治体に5,000円以上寄付した場合、個人住民税と所得税が軽減される。あくまで寄付金のため、全国の自治体で呼込み活動が活発に繰り広げられている。積極的な施策として、ふるさと納税をしてくれた方には特産品を提供したらどうか。

答 地場産物のPR・寄付者と市の関係を一層深くし、今後も継続して頂くためにも若狭塗箸など特産品の提供を検討する。

問②後瀬山城から青井の神明神社までの遊歩道整備について問う。歴史街道として、道標を設置したり山城からの展望を良くするため、本の伐採などの整備をしてはどうか。

答 調査を進め、必要な看板の設置や景観のため山頂の木の伐採を環境保全などに考慮しながら検討したい。



松崎 圭一郎
議員

問①日本を代表する新谷オリンピック選手の壮行会等を、市は後援会や協会等に任せっきりで、応援懸垂幕すら最後まで市役所庁舎に掲げられる事はなかった。これは特定事業のみに限ってなされる当市の偏重的行政の一つの表れで、首長のパフォーマンス的思惑や一存で予算が執行されるような事が今後ないように新市政に強く求め。

答 本市は、種目協会を中心に後援会や励ます会で壮行会等を行って頂いている。今後も顕彰規定に基づき行っていきたい。

答 新たな進展がなくこう着した状況下にあるが、嶺南特定失踪者の真相究明を願う会等と連携して一層の努力をしていきたい。